

# TJFニュース

「TJFニュース」では、TJF（国際文化フォーラム）の活動報告や、事業に関連するさまざまな動きをニュースとしてまとめ、お伝えしていきます。

## ■日本の地域教育関係者の中国派遣事業 極寒の北京で温かく交流

TJFは2008年度から、中国語教育に取り組んでいる地域の教育行政者や中国語・中国理解教育などに関心をもつ学校の管理職を中国に派遣する事業を企画・実施しています。この事業は、中国国家漢弁が主催しており、以下の3項目を大きな目標に掲げています。

- ① 中国の小中高校の視察、校長をはじめ教育関係者との意見交換を通じて、中国の教育について理解を深めてもらう。
- ② 訪問都市の名所旧跡の見学、市民生活の視察、伝統文化の観賞などを通じて、中国の社会、文化について理解を深めてもらう。
- ③ 中国に対する関心を高め、理解を深めることにより、各学校における中国語教育、中国理解教育および中国との交流の発展につなげてもらう。

2009年度は、12月22～26日の日程で、神奈川県私立中学高等学校協会と東京私立中学高等学校協会の協力を得て、神奈川県内8校の私立中学校高等学校の理事長・校長・副校長、神奈川県私立中学高等学校協会事務局長等10名、東京都内の私立中学校高等学校の校長4名、事務局2名の計16名を北京に派遣しました。

滞在中、公立の中高一貫校1校、私立の小中高一貫校2校を訪問し、管理職との懇談、授業や施設の見学、生徒との交流を行いました。その後、中国私立教育協会小中高校



受け入れ機関である北京経済技術開発区実験学校の小学生の英語の授業を見学。英語ネイティブの教師による直接法での授業だった。

専門委員会事務局長、区教育委員会私学担当責任者、校長等を交えて意見交換を行い、交流を深めました。また、京劇を観賞したり、世界遺産や北京市民の朝練風景、オリンピック公園、日系企業などを見学したりしました。事業の効果については、終了後に行ったアンケートに寄せられた参加者の感想をご参照ください。

## 2010年度に向けて

日本の高校における中国語教育を促進するためには、中国語教育に取り組んでいる高校の安定と活性化を図るとともに、まだ取り組んだことのない高校に対して働きかけを行うことが必要です。2008年度と2009年度に実施した事業は後者でした。派遣後は参加者全員が中国に興味をもつようになったものの、中国語教育の導入や中国との交流の実現にはまだまだ長い時間がかかりそうです。そのため、3回目となる今年度からは、中国語教育取り組み校を優先するとともに、募集地域をこれまでのように神奈川、東京に限定せず、全国の高等学校を対象にし、参加枠を40名に拡大します。中国語教育をまだ実施していない高校への働きかけも継続して行っていきます。

(長江春子)

## 参加者の感想 (アンケートより抜粋)

- ・ 中国(北京)の語学教育事情、教育制度、私学の状況がよくわかった。
- ・ 日本語クラスや英語クラスの生徒と話ができたのがとても良かった。
- ・ 中国の教育事情をさまざまな観点から見ることができ、有意義な情報が得られた。特に中国のほうはずっと先を見て教育を考えていることに感心した。
- ・ 中国の学校事情を詳しく知ることができた。中国の社会事情が以前と比べてかなり発展していることがわかった。英語教育にかなり力を入れており、中国国民の教育に対する意識の変革に驚いた。
- ・ 中国の教育事情を知ることができた。想像以上に教育の自由があり、特に英語教育などのレベルが高かった。
- ・ 学生の向学心を肌で感じるとともに各学校の意欲を強く感じた。「国」をあげて後押しし切磋琢磨できる環境にあることがわかった。日本の教育に対する意識の低さを再確認した。

## ■韓国語教育関連事業

## クムホ・アジアナ杯第3回大会を終えて

3月13日(土)、第3回クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会(主催:クムホ・アジアナ文化財団、駐日韓国大使館 韓国文化院、日中韓文化交流フォーラム、TJF)の本選が駐日韓国文化院(東京)で開催されました。第3回大会には3部門(韓国語スキット、韓国語スピーチ、日本語エッセイ)合わせて483名の応募があり、うち37名が本選に出場しました。過去3回の総応募者は1,458名に達しました。

クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会応募者数				
	第1回	第2回	第3回	合計
韓国語スキット部門	230	258*1	296*2	784
韓国語スピーチ部門	65	21	22	108
日本語エッセイ部門	199	202	165	566
合計	494	481	483	1,458

\*1 地方大会の応募者150を含む \*2 地方大会の応募者210を含む

韓国語スキット部門は、指定された韓国語の台本を暗記し、二人一組で演じるもので、初級学習者を対象としています。演劇の要素を取り入れることによって韓国語の表現力を高めることをめざしています。このクムホ・アジアナ杯とは別に、全国9都市で、高校生や一般の人びとを対象とする「話してみよう韓国語」地方大会が開かれています。この地方大会のスキット部門に参加した高校生のうち最も優秀な一組が本選に出場できる資格を得ます。この地方大会は2002年に東京と大阪で始まり、韓国語の学び方を提案するとともに、学習成果の発表の場として定着しています。

韓国語スピーチ部門は、韓国語を母語としない高校生を対象としています。3回の合計応募者数は108名で、他の部

門と比較して多くありません。内容のある話を韓国語で発表できる高校生がわずかしかいない学校教育の現状を反映しているといえます。入賞者の多くは、両親のどちらかが韓国人であったり、本人自身が韓国に滞在経験があったり、民族学校で学んだことがあったりする高校生ですが、韓国語や韓国に魅せられて独学で学んだ高校生もいます。

日本語エッセイ部門は韓国や韓国語に関するテーマについて日本語でエッセイを書くもので、エッセイのなかに韓国語の字句や文を一つ以上入れることが条件となっています。文章力と発表力の二つが総合的に評価されます。

二つの韓国語部門だけでなく、3回の大会を通じて全応募者の約4割を占める日本語エッセイ部門は、高校生が韓国や韓国語に対する関心を抱ききっかけとして大いに有効だと考えています。

クムホ・アジアナ杯の参加者のなかには、東方神起をはじめとするKポップや韓国ドラマが好きで韓国語を学んだ高校生が多くいることも注目されます。第3回大会のスピーチ部門で入賞した武田美春さん(鹿児島県立鹿児島東高等学校3年)も熱烈な東方神起のファンです。武田さんは第1回大会スキット部門で入賞しましたが、その後、第3回大会まで2年間にわたり個人的に学習に励み、今回は「世界のために私のできる」と題してアフリカの食糧問題について韓国語でスピーチを行いました。

今回を含めて3回のクムホ・アジアナ杯高校生大会の各部門の入賞者と作品等は、ウェブサイトをご参照ください(<http://www.asiana.co.jp/speech/>)。

第1回から第3回大会まで、TJFはクムホ・アジアナ杯の主催団体の一つとして、事務局を担当してきました。今後は後援団体として、財団のウェブサイトや機関誌を通じてクムホ・アジアナ杯を広報するなど協力していく予定です。

(小栗章)

## ■高校生の写真関連事業

## 海外の高校生の素顔がわかる写真を発信

第31回よみうり写真大賞高校生部門「フォト&エッセイの部」(読売新聞社主催、TJF後援)で、初めての試みとして、海外の高校生から作品を募集することになり、TJFはネットワーク



第3回大会本選を終えて。

を生かして、日本語を学習している高校生を中心に広報活動を行いました。その結果、英国、カナダ、韓国、台湾、中国、ニュージーランド、ブルガリア、米国の8ヵ国・地域から、72作品の応募がありました。日本の高校生の応募作品を含めた178作品のなかから、大賞、1席、2席各1点、入選10点が選ばれました。海外からの作品は4点が入選しました。

この「フォト&エッセーの部」は、TJFが1997年度から2006年度まで実施した「高校生のフォトメッセージコンテスト」の趣旨を引き継ぎ、2008年度に設けられました。高校生自身が、身近な高校生をモデルに、日々の様子や日ごろ考えていることなどを2〜5枚の組写真と文章で表現します。TJFは、入賞・入選作品などをTJFのウェブサイト「The Way We Are II」に掲載し、日英2言語で国内外に向けて発信しています。

今回海外から寄せられた作品には、家庭や学校、地域での高校生のいきいきとした日常の様子が切り取られています。今回の試みによって、海外の高校生の素顔や考えていることを日本の同世代に伝えることができました。

入賞・入選作品のほか、海外からの応募作品の一部も「The Way We Are II」に日英2言語で掲載していきます。

(扇谷真佐子)

## 入選作品

「瞬間を生きる！ 私の親友パトリシア・ガルシア」の一部  
ステファニー・ワグナー (米国)



### モデルについて (撮影者のメッセージ)

彼女の人生は、青春のエネルギーに満ちあふれている。彼女の横にいると、何でもできるような気持ちになる。すぐばかげたことでも何でもできるというオーラを彼女はまき散らしている。彼女の横にいると、楽ちんな場所から一歩踏み出して、全く新しい方法で自分を表現できそうな気がする。いつの日か彼女のように自信をもちたい。

(原文は英語、一部抜粋)

## 中国語教育関連事業

### 京劇ワークショップを開催しました

中国国家漢弁の助成を得て、駐日中国大使館教育処とTJFの共催で、「京劇ワークショップ：中国の伝統文化を体験する」を3月6日(土)に開催しました。当日は雨天にもかかわらず、会場の教育処のホールに用意した90席は、中国語や中国文化に関心をもつ小学校3年生から70代の人たちですべて埋まりました。

講師は、北京市戯曲学校で京劇を専攻し、北京の京劇団で活躍した後、1987年来日、京劇普及のためさまざまな活動をされている、魯大鳴さんにお越ししました。

銅鑼の音とともに、舞台用のメイクをして登場した魯さんは、「今日の話を知っていただければ、京劇が10倍楽しくなります」と前置きし、来日してから学んだという流暢な日本語で、役柄、芝居の分類や構成要素、隈取の意味など京劇の基本知識をわかりやすく解説しました。せりふ回しや歌などについて、みずから演じたり、映像などを交えたりするなど、熱のこもった説明で、参加者は次第に京劇の世界に引き込まれていきました。

続いて行われたのが、今回のワークショップの目玉である京劇役者の体験です。参加者はそれぞれ魯さんに化粧をしてもらい、衣装をつけてポーズをとったり、単皮鼓や銅鑼などの打楽器を使って演奏したり、槍を使って立ち回りを演じたりしました。

ワークショップ終了後、参加者は講師を交えて中国の代表的な料理である水餃子を食べながら、京劇について語り合いました。

参加者からは、「京劇の基本がよくわかった。今度は京劇の公演を見たい」「チャンスがあれば、京劇の衣装を着て、演じてみたいと思った」などの感想がありました。TJFでは、今後も引き続き中国語や中国文化にふれる機会を提供していきたいと思っています。

(水口景子)



化粧をし、衣装もつけば気分はすっかり京劇役者。

## ■ウェブサイト事業

## 新しいコーナー、ページができました

## ■財団の概要を4言語で見られるようになりました

財団についての基本的な情報をこれまでの日本語、英語に加え、中国語、韓国語でも閲覧できるようにしました。また、各言語で作成されたコンテンツへ容易にたどり着けるようにしました。

## ■「くりっくにっぽん」に「Voices」コーナーを新設

日本に興味をもつ人と日本語教育に携わる人に向けて、日本関連の情報を発信するサイト「くりっくにっぽん」に「Voices」コーナーを新しく加えました。「Voices」では、「日本の文化と人びと」コーナーに登場した高校生や大学生が自己紹介したり自分のまちや夢などについて語ったりしているのを聞くことができます。

海外で日本語を学習している中高生が「日本の文化と人びと」に掲載されているかれらの記事を読み声を聞くことで、親近感を覚えたり、かれらへの理解を深めたりすることが期待されます。

## ■「紹介します TJFの事業」コーナーを新設

TJFの事業を取り上げ、当該事業の経緯やめざしていること、具体的な内容などを紹介するコーナーをトップページに新設しました。

## ■「高校生写真ギャラリー」に作品を追加

高校生が写した写真を紹介するコーナー「高校生写真ギャラリー」に、埼玉県立熊谷高校定時制から届いた8作品を掲載しました。

(森亮介)

## ■理事会・評議員会

## 2009年度第2回通常理事会および評議員会の報告

去る3月23日(火)、午前に理事会、午後には評議員会を開催し、①2009年度事業概況報告および収支予算書一部変更の承認の件、②2010年度の事業計画および収支予算書の承認の件、③定款の変更の案(新定款案)および新定款案附属5規程の修正案の承認の件、④新定款案附属2規程案の承認の件、⑤新定款案附則への理事、監事、評議員の掲名の件、⑥公益認定後の最初の代表理事、業務執行理事の選任および新定款案附則への掲名の件、⑦移行認定申請の件、⑧評議員退任の件、以上8件の議案を審議していただきました。

審議の結果、⑤、⑥の2件については、掲名の方法は原案どおり承認され、掲名する氏名については5月の2010年度第1回通常理事会で再度審議することとし、その他の6件は、いずれも原案どおり承認されました。

2010年度も経済情勢の影響を受け、きびしい運営が予想されますが、移行認定をふまえて公益事業のさらなる充

実に努めてまいります。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

(岡崎憲行)

## 2010年度事業計画一覧

## I. 海外の小中高校における日本語教育および日本の文化について理解を促進する事業

- ・大連市中高校日本語教師の訪日研修への協力
- ・大連市中学校第二外国語教育用日本語教科書『好朋友』のフォローアップ
- ・第二外国語としての日本語教育の推進と『好朋友』のワークショップの開催
- ・遼寧省小学校日本語教科書の編集出版への協力
- ・日本事情・日本語授業案紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営
- ・日本関連写真提供サイト「TJF Photo Data Bank 日本編」の運営
- ・海外の日本語教師向け英文情報誌『Takarabako』の発行と情報提供サイトの運営
- ・中国の日本語教師向け中文情報誌『ひだまり』の発行と情報提供サイトの運営
- ・日本語教育ネットワーク活動

## II. 日本の小中高校における外国語教育および多様な文化について理解を促進する事業

- ・高等学校韓国語・中国語教師研修の共催(東京)
- ・高等学校中国語教師研修の共催(長春)
- ・高校の中国語と韓国語の学習のめやす(完成版)の作成
- ・中国語を学ぶ高校生の中国サマーキャンプの実施
- ・中国関連写真提供サイト「TJF Photo Data Bank 中国編」の運営
- ・中国語教師向け情報誌『小渓』の発行と情報提供サイトの運営
- ・外国語教育ネットワーク活動

## III. 国内外の教育関係者および学習者間の交流を促進する事業

- ・世界の中高生交流サイト「つながる」の運営
- ・高校生の写真紹介サイト「高校生のフォトフォトフォト!」の運営
- ・日本の教育代表団の中国派遣
- ・大連市教育行政者の日本招聘
- ・中国東北部教育行政者の日本招聘
- ・中国東北部中学校の校長の日本招聘
- ・米国ウィスコンシン州教育代表団の日本招聘
- ・学校交流活動協力
- ・交流ネットワーク活動

## IV. 広報出版・ウェブサイト制作運営

- ・機関誌『国際文化フォーラム通信』の発行とサイトの運営
- ・事業報告と広報資料の作成
- ・TJFウェブサイトの運営
- ・広報ネットワーク活動

## 実施事業一覧(2010年1月・2月・3月)

- 大連市中高校日本語教師訪日研修協力(1~3月/埼玉)
- 第27回全日本中国語スピーチコンテスト後援(1月/東京)
- 第31回よみうり写真大賞高校生部門「フォト&エッセーの部」後援(1月)
- 「話してみよう韓国語」地方大会後援(1月/東京[中高生大会]、2月/福島・東京[学生一般大会]・大阪・青森、3月/新潟)
- 『国際文化フォーラム通信』第85号発行(1月)
- 『小渓』No.43発行(1月)
- 第3回クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会共催(3月/東京)
- 「京劇ワークショップ:中国の伝統文化を体験する」共催(3月/東京)
- 第10回北陸地区高校生中国語発表会後援(3月/石川)
- 「好朋友特使」中学生大連派遣事業実施(3月/中国大連)
- 第10回高校生意見発表会後援(3月/東京)
- 『Takarabako』No.23発行(3月)
- 『ひだまり』第42号発行(3月)

## お知らせ

### ■平成22年度高等学校中国語担当教員研修を開催します

日程： 2010年7月25日(日)～8月6日(金)  
場所： 吉林大学(中国吉林省长春市)  
対象： 高等学校で中国語の授業を行っている教諭または講師(非常勤講師も含む)、および現在は他教科を担当しているが中国語の学習経験があり今後行う可能性のある教諭20名  
研修内容： 中国語教育の現場で必要とされる教授法の習得、運用能力の向上をめざすカリキュラム。中国語・中国文化を理解するためのさまざまな活動  
主催： 文部科学省、中国教育部、中国国家漢弁、TJF

### ■第4回漢語橋：日本の高校生サマーキャンプを実施します

本サマーキャンプでは、中国語教育専門家による授業や中国語を使った買い物実習のほか、現地の高校生との交流や一般家庭への訪問、伝統文化体験などを予定しています。詳細はTJFまでお問い合わせください。

日程： 2010年7月24日(土)～8月2日(月)  
場所： 中国北京市  
対象： 日本語を第一言語とし、授業または課外で中国語を学んでいる(または学習歴のある)高校生92名  
主催： 中国国家漢弁  
実施： TJF  
協力： 文部科学省  
輸送協力： ANA  
参加費： 7万円+燃油サーチャージ  
締切： 5月19日(水)TJF必着(応募用紙はTJFウェブサイト「お知らせ」からダウンロードできます。www.tjf.or.jp)

### ■高校等で外国語を担当する教員を対象にセミナーを実施します！

昨年好評をいただいた外国語教育法のセミナーを、今年も引き続き下記のとおり開催します。當作靖彦教授をお迎えして、昨年よりさらにバージョンアップした研修を計画しています。前半2日間は、高校等で広く外国語教育に携わっている教員を対象として、カリキュラムのバックワードデザインをテーマに、コミュニケーション能力が身につく学習プロセスと新しい評価法を取り上げます。後半3日間は、韓国語と中国語教育に携わっている教員を対象としてワークショップ形式で実際の授業づくりに取り組んでいただく予定です。詳細は、TJFウェブサイトの「お知らせ」で「2010年度高等学校韓国語・中国語教師研修」をご覧ください。www.tjf.or.jp ご参加をお待ちしています。

日程と対象： ≪前半≫2010年8月5日(木)～8月6日(金) 外国語担当教員  
≪後半≫2010年8月7日(土)～8月9日(月) 韓国語・中国語担当教員

場所： 桜美林大学町田キャンパス  
主催： TJF  
共催： 桜美林大学

### ■TJF Photo Data Bankの運営を終了します

TJF Photo Data Bankは2001年に日本編、2004年に中国編がスタートし、日本語や日本理解、中国語や中国理解の授業に役立つ写真をみなさまに提供してきました。開設当時、無償で利用できる教育目的の写真データベースは類例がほとんどありませんでした。しかし、時代の流れとともに、ネット上に複数の写真データベースが見られるようになったことから、TJF Photo Data Bankはその役目を終えたと判断し、7月15日をもって運営を終了することにしました。TJF Photo Data Bankは終了しますが、外国語や文化理解の授業に役立つ写真を今後も提供していきたいと思っております。

## 編集後記

[http://www.tjf.or.jp/newsletter/kouki/kouki\\_j.htm](http://www.tjf.or.jp/newsletter/kouki/kouki_j.htm)

TJFは、日本や海外の小中高生への外国語教育において、若い世代が互いのことばと文化を学びながら自己理解を深め、さまざまな背景をもつ人びととつきあっていく力を身につけることを教育目標に掲げている。これらの目標を達成するために、実際に外国語を使ってコミュニケーションできるようにするための教育内容や方法を追求してきた。その帰結として、学習者に、教室で学んだ外国語を使って、世界の同世代と実際に対話できる場を提供したいという構想が生まれ、中高生のための多言語による多方向の交流サイト「つながる」の誕生に結びついた。

「つながる」は、SNSを利用したウェブサイトだが、mixiなどと異なるのは、教育的配慮がなされていることである。中高生のプライバシーの保護とセキュリティ管理を徹底させるために、SNSをオーダーメイドで変えている。登録時に本人確認を行うとともに保護者の同意を得たり、登録後も投稿内容に個人情報や不適切な表現が含まれていないかチェックしたり、と参加へのハードルが高い。しかし、中高生が安全な環境で安心して参加できることを最優先させない限り、教育現場の支持は得られない。また、参加者を中高生に限定しているため、基本的に大人が介入することはないが、TJFは水面下で国内外の教師とネットワークを形成し、参加を呼びかけ、教師の協力を得てサイトを運営している。

「つながる」には「マイページ」と「コミュニティ」のページがあるが、今号では、それぞれのページでの参加者間のやりとりの様子を、参加者の同意を得て紹介した。

教師は基本的に参加できないが、一定期間サイトのなかを閲覧することができる。クラス活動に利用する場合にはさらに必要な期間アカウントをもつこともできる。指定されたメンバーだけが参加できる「非公開コミュニティ」もあり、これを利用すれば国内外の特定の学校と交流したり、共同学習をしたりすることもできる。そこでは教師も書き込みができる。

今号では、「つながる」をクラス活動に利用している例をいくつか紹介しているが、その利用の仕方は多様である。TJFの担当者が個別に学校を訪問し、教師の要望に合わせて共にプログラムを開発している。海外の交流相手や教師を紹介したり、直接中高生に使い方の説明をしたりしている。関心のある先生方には是非ご連絡をいただけたらと思う。

「つながる」に参加することによって、中高生は言語操作やIT操作といったスキルを向上させることができるが、それ以上に、世界のさまざまな地域に生きる、多様な文化的、社会的背景をもつ同世代とリアルな対話ができることがこのサイトの最大の魅力である。新鮮な驚きや新たな発見を重ねて、つながりを感じてくれたら嬉しい。

中野佳代子

財団法人 国際文化フォーラム  
THE JAPAN FORUM



国際文化フォーラム通信 86号  
2010年4月発行

発行人・編集人 中野佳代子  
デザイン・DTPオペレーション 飯野典子  
フォーマット設定 鈴木一誌  
出力・印刷・製本 凸版印刷(株)  
校閲・校正 石井雅男・松木万里子

財団法人 国際文化フォーラム

〒112-0013 東京都文京区音羽1-17-14  
音羽 YKビル3階  
TEL 03-5981-5226 FAX 03-5981-5227  
E-mail: forum@tjf.or.jp  
<http://www.tjf.or.jp/>